

# v-HIT（ビデオヘッドインパルス検査）

EyeSeeCam（ダイアテックジャパン）

頭部の急速な動きに伴い発生する前庭動眼反射（VOR）を測定し、三半規管の機能異常を評価します



- ①専用のゴーグルを装着します
- ②目の動きを確認しキャリブレーションを行います
- ③検査者が患者様の頭を固定し水平方向（左右）・垂直回転方向に頭を急速に動かし、その際の目の動きを波形に表します

頭部を回転したときに、視標を固視できるかを確認します。視標を固視しておくためには、眼球の動きは頭部の動きと同じ角速度で逆方向へ動かなければなりません。前庭機能障害がある場合、眼球は頭部の動きに追従し、その後、再び視標に戻すために視線を補正します。この代償性眼球運動を「サッケード（saccade）」を波形に表します。